

○平成二十二年度

一学年校外学習

彫り駒の心という字に心こめ彫つてゆく手がりりしく見える
紅色の花を散りばめ和紙を漉く深き歴史を心に刻み
伝統の月山和紙を漉いていく紅花の色和の心なり
旅先で雨は降るなりしとと輝くメノウ雫のごとし
山々の萌える若葉の色に似て月山メノウ青く輝く
一杯の蜜にこめらる一生を思い描いて蜜ろう作り
忘れまい灯るあかりはミツバチの巣からのめぐみこの蜜ろうは
伝統の最上紅花ながめつつ自然を感じ未来を想う
紅花の淡いピンクに染められて五組の心皆同じ色
鈴の絵に自分らしさをあふれさせ一筆一筆願いを描く
鈴の絵に願いを込めて筆はこび響く鈴の音心和ます
高櫓舞鶴山の頂に上つて望む天童の町
フラッシュを忘れて撮つた思い出上手元に残るは友の幻
蕎麦作り思い出作り悔いはなし腹も心も嗚呼満腹だ
鼠色山形の空曇つても一年生の心輝く
若松寺多くの人の縁結び多くの人の出会いを願う
彫り駒に心を込めて心彫り私の思いつまつているかな
山形で絆深まるよいクラスみんな友達あふれる笑顔
山形で舞鶴山を登つたら大きなケヤキがクラスを迎える
芸を皆で作りたい出に絆を深めた山形の旅
焼き物を心を込めて作るから丈夫なお皿できるといいな
バスの中皆仲良く山形にまだかまだかと心がおどる
雨の中校外学習山形に鈴の絵付けで心晴れ晴れ
手打ちそば食べてしまえばなくなるが心の中で消えることなく
このうまさ言葉にできぬ極上の口に広がる蕎麦の香りよ
初めてのそば打ち体験お手本の職人技にまだまだ遠く

二学年野外活動

暗闇で冷える体に針の岩恐怖と期待思いさまよう
闇の中雨水滴る鍾乳洞静かな音色に心が躍る
見上げると幾千の星輝いて夜空一つが宝石箱だ
「ごはんだよ」呼ばれて気づく温かさ満点の笑顔満天の星
神秘的歴史を語るひとしづく時代を越えた森の産物

動いてるウニの殻剥き初体験ほつたぼろり海のごちそう
三陸の夜空に光る星見つけ久慈の歴史を肌に感ずる
山々に見守られながら歩む道ブナの葉の音我が耳に届く
水にぬれ気持ち高ぶり流されて必死にのぼる魚のように
木々に触れ新たに生まれた思い出は生き続けてく大樹のように
ひんやりと内間木洞の暗闇に静かに眠るテングコウモリ
真つ暗の富士見平で見た星は月に負けじと輝きつづける
水の上声を合わせて一、二、三楽しい思いが心にしみて
白樺や二輪草などの植物が大きな口で我ら吸いこむ
芽吹く木々溢れる光この全て力にかえて強い自分に
潜ぎ出すと思いのままに進み出す空としぶきに感じた初夏
星空と半月を見てころがればいつまで続く感嘆の声
トレッキング山形町の自然より輝いていた我らの笑み
一粒の琥珀に秘めた物語太古の歴史今よみがえる
見知らない家で過ごせし一晚の温かさゆえ心に染みいる
満天の星空の中囲まれてそこは自然のプラネタリウム
偉大なる自然に抱かれ湖の澄み渡りゆく心と景色
願う事久慈市に輝く星達の流れる光に願いをのせて
富士見平大三角が見えぬほど満天の星心に響く
満天の星空眺め胸を打つ星と輝く友の笑顔
広大な草地に寝そべり見上げるは強く輝く満天の星
あの三日夢のごとくにすぎさつたされど思い出心の中に
美しい自然あふれるブナ林森の恵みに生かされている

三学年修学旅行

東京の空を仰げばビル高く天まで届け希望とともに
背のびして一番星に手を伸ばす君と寄り添う夢の列車で
高所から人を見ているこの俺も見られた気がしてふと振り返り
ギラギラに睨み合うビル東京の昇れる太陽私に輝け
赤き城古き伝統ひきつがれ己の炎影ゆられけり
十六夜の月に照らされ青き山ゆるぎないもの一つ見つけた
窓の灯が夜空の星を消している心も共に消えるのだろうか
同じだね空のかなたの星たちとひとみの中の輝く笑顔
画用紙の上のかすかな色の音も吹く風さえも木の声のよう
天近き首都の頂点眺めよし時代の流れ肌で感じる
水たまり疲れた足で飛びこえて急げ東京デイズニerland

扉開け心の距離が縮みゆく時過ぎゆけばすでに星空

一学年合唱コンクール

精一杯の努力と笑顔と歌声とアポロの合唱大きく響く
バスの中ほほえみかわし語り合う三週間の良き日思ひ出
ハーモニー音と音とが交じり合うその時だけの神秘のアート
目標は心一つにイワシングここに生まれし最高の歌
発表の後の拍手が一斉に客席全部が肌色の波
涙あり笑顔で終わるコンクール感動の響き来年もまた
メロディーはみんなの心がつくりだすそして奏でるクラスの絆
本番でみんなで心一つにし結果以上のもの得られたね
秋の日に心をつなぐハーモニーみんなでつくる夢の世界を
指揮台の上から眺める皆の顔今日が一番満面の笑み
楽しんで歌えたことで四組のみんなの想い伝えられたね
メロディーと男女の声のハーモニーみんなの心ときめかせたよ
歌い終え結果を待っている人笑い涙で悔しさ隠す
ステージで仲間と奏でるハーモニーホールの中と心響かす
金賞を絶対取るぞと願いこめ円陣を組み心一つに
合唱の歌声ひびけ天高く金のヒマワリ咲き乱れる
ありがと言えない代わりに流した涙皆で咲かせた金のヒマワリ
一のハいい歌声といい心これらをそろえ今歌い出す
思い出は友と奏でたハーモニー流した涙も心の中に
歌い終えこみあげてくる達成感悔いが残らず心晴れ晴れ
誰一人欠けることなくやりぬいた銅がどうした八組サイコー
合唱が終わった後の表彰で仲間のことをたたえる拍手

二学年合唱コンクール

帰り道ハミングしながら空見れば風がやさしくほほをなでゆく
僕たちは金賞いらないなぜならばみんなの心が金賞だから
たくさんさんの歌への思いかよわせて笑顔の花が咲いていく
秋風に吹かれて聞こえるハーモニークラスの団結さらに深まる
心から奏でた音はどこまでも響き伝わる絆とともに
パート楽譜を持つてラジカセと歌った後に必ず笑顔
みな夢唄に託され響き合い一音空へと舞い翔んでいく
歌う声二十五クラス別の色二十五色の合唱コンクール
今までの思い出めぐる結果聞きホールにはばたく歓喜の歌よ

コンクールみんなで取ったシルバー賞二組に降臨合唱の神
緊張と光の中でいざ歌う苦労と努力を歌声にのせ
ばかばかと二組でとつたたからもの心に残った笑顔たくさん
思いこえて魂でうたう song is my soul 会場全体音符が走る
秋に入り友と奏でたハーモニー今も僕らは時の旅人
なによりも大切なのはハーモニー音も心も重なってゆく
金賞をとれると信じ向かったよあのステージの向こう側まで
この楽譜見ればわかるよ頑張り仲間たちとの努力のあかし
今もなおあの瞬間がよみがえる一つになった響く歌声
栄光の金のトロフィー手にしたら翔る思いは with you smile
悲しみの涙にぬれた銅賞は未来へ向かう大きな一歩
響く声ピアノの音色に思いのせ未来へ飛ばそうみんなの願い
大切なものに気づいた僕がいた全力つくせば深まる絆
コンクールホールに響くハーモニーオレンジ色の温かい声
銅賞と言う名の金賞受け取ったみんな咲かせた笑顔の花
これまでの努力が見える声の色言葉にできぬ心の音色
かずかずの困難乗り越え手にするは二の六みんなの想いの結晶
ぼうぜんと涙を流す心に言う「みんなで歌えた それが金賞」
それぞれの思いを抱いて歌い出す仲間と共に願いをのせて
ハーモニーホールいっぱい響いたよ涙あふれた素敵な思い出

三学年合唱コンクール

合唱で努力の響き重ねたらクラスの心重なりあつた
秋空にひびくみんなの歌声は空に向かってはばたいていく
響かせて大きな花を咲かせた日をここからもまた新たな種まき
幾千のまぶしい光まなざしを浴びて伝える私の想い
午後三時ひびきわたった街中に喜びに満ちた二組のさけび
波起こる声と声との山がたつ時がぶつかり波消えてゆく
君がいるただそれだけで胸はれるちっちゃな音符に想いを込めて
遠き日に誰が唄ったこの歌よ思え ”伝統” ”時”を唄おう
鳥たちが仲間の思い歌にのせ苦難をこえて今羽ばたいた
ばろばろの楽譜をなぞって口ずさむ歌声響かぬ朝の八時
星たちの輝き方は異なれど作り出しけり永遠の虹
その大地みんなで立てばステージさ未来に向けて勝利をつかめ
青空にむかつて立てた竹竿よそれが未来のようなんだなあー
泣き笑い語りつくせぬコンクール何より大事な仲間へ気付けた

僕達の儚き祈り響かせて心の詩を遙かな空へ

果てのない未来抱きて燃ゆる夢今旅立たん凜と蒼穹

ぼろぼろの楽譜めくると思い出す日々の練習努力の軌跡

不安気でいまだに慣れぬ伴奏にこたえてくれる皆の響きが

金賞を手にすることはできずとも心に残りし幾多のおもい

コンクールわたしの中の金賞はみんなの声とみんなの笑顔

会場の皆に思いは届いたか手拍子聞こえ目頭押さえる

目を閉じて胸を躍らせゴールドに紙面に落ちる塩辛い水

手拍子で一つになった会場が初の手拍子革命起こす

会場の手拍子と歌調和して支えてくれた私の伴奏

演技前仲間と共に組んだ手は最後は自分の涙で濡れた

金の夢叶いしもまだ歌いたい再び心の手をつなぎたい

なんだろう自然と笑みがあふれ出すあの空までも奏でる音色

キンモクセイ香るあの日の我らにも聞かせてあげたいこの響きかな

苦しんだラストメロディー決まりけり心の花に塩水をさす

担任の顔見て涙あふれだす今までの思いこみあげてきて

校舎から大地讃頌響き渡り杜の都の大地が揺れる

後輩の姿を見れば思い出すもう最後かとさみしさ感じて

今までのあふれる気持ち抱きしめて信じる気持ち得ることできた

振る先のしるべに沿って声あげし万感のせて舞う秋の空

仲間たち信じて臨む晴れ舞台輝く黄金我らの心に

八組の目指したものはみな同じ仲間を信じ深まる絆

見渡せば金にも勝る友の顔気づくところに二つの宝